

ネゼ=セガン×五嶋龍 当代屈指の天才2人の競演で
「華麗なるフィラデルフィア・サウンド」がさらなる高みに昇華

第54回大阪国際フェスティバル2016

ヤニック・ネゼ=セガン 指揮 フィラデルフィア管弦楽団

54TH OSAKA INTERNATIONAL FESTIVAL 2016

YANNICK NÉZET-SÉGUIN conducts
THE PHILADELPHIA ORCHESTRA

武満 徹：

ノスタルジア

—アンドレイ・タルコフスキーの追憶に— (1987)

Takemitsu: Nostalgia -In Memory of Andrei Tarkovsky for violin and string orchestra

ソリスト：五嶋 龍 soloist: Ryu Goto

プロコフィエフ：

ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調 作品19

Prokofiev: Violin Concerto No. 1 in D Major, Op.19

ソリスト：五嶋 龍 soloist: Ryu Goto

ブラームス：

交響曲第2番 ニ長調 作品73

Brahms: Symphony No.2 in D Major, Op.73



五嶋 龍
ヴァイオリン

2016 **6.2** (木) 開演19:00 (開場18:00)

フェスティバルホール

〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18 京阪中之島線「渡辺橋」駅12番出口直結 地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅1-A出口

S 24,000円 A 20,000円 B 16,000円 C 13,000円 D 9,000円 BOX 29,000円 バルコニーBOX (2席セット) 48,000円 [全席指定 (消費税込み)] ※バルコニーBOX席はフェスティバルホール チケットセンター(電話予約)のみの取扱

チケット 一般発売日	フェスティバルホール クラブ会員 先行受付開始	2015 11/28(土) 10:00-
2015 12/13(日) 10:00-	フェスティバルホール オンライン会員 先行受付開始	2015 12/5(土) 10:00-

カジモト・イープラス 会員限定先行受付	2015 11/28(土)12:00 ~ 12/2(水)18:00
(カジモト・イープラス) 先行受付専用電話番号:0570-06-9969 [10:00~18:00(初日のみ12:00より受付)]	

チケットセンター

ガイド

- フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00) ※窓口での取扱は12月14日(月)より(ただし、残券がある場合のみ)
- フェスティバルホール オンラインチケット(要事前登録) <http://www.festivalhall.jp> (PC・携帯共通)
- カジモト・イープラス 0570-06-9960 <http://kajimotoeplus.com/> ※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます
- キョードーチケットセンター (オペレーター対応 各日10:00~18:00) 0570-08-9910 (2015.12/12(土)18:00まで) 0570-08-9970 (2015.12/13(日)10:00より) <http://www.kyodo-osaka.co.jp/oif/>
- e+(イープラス) <http://eplus.jp/> ●チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード 281-319] <http://t.pia.jp/>
- ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応) 0570-084-005 [Lコード 59970] <http://l-tike.com/>
- CNプレイガイド 0570-08-9990 <http://cncn.jp/>

主催：朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、KAJIMOTO 協賛：朝日放送
協力：フェスティバルホール

※やむを得ない事情により曲目、出演者等が一部変更になる場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。予めご了承ください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

ヤニック・ネゼ＝セガン [指揮] Yannick Nézet-Séguin, conductor



2012年秋、名門フィラデルフィア管弦楽団の第8代音楽監督に就任。以来、同団の本拠ベライズン・ホールやニューヨークのカーネギーホールをはじめ、全米各地での公演を成功に導いている。ネゼ＝セガンの高いコミュニケーション能力と音楽への限らない好奇心、熱意、そして新鮮なプログラミングは批評家や聴衆たちから歓迎され、米紙「ニューヨーク・タイムズ」は「明るく鮮やかな弦の響きとバランスのとれた豊かなサウンドで知られるフィラデルフィア管弦楽団を、かつてこれほど素晴らしく鳴らした者はいない」と絶賛している。初シーズンでは同

団を新たな音楽的高みへと引き上げ、マーティン・ルーサー・キング追悼公演での力強い演奏や、フィラデルフィア・オール・シティ・オーケストラの若い演奏家たちとの共演、ジルヴェスター・コンサート、カーティス音楽院との密な関係の構築などを通して、地元フィラデルフィアの聴衆との絆を強めた。同団とは2013年3月に『ストラヴィンスキー：春の祭典 ほか』をドイツ・グラモフォン・レーベルに録音。同世代の中でも突出した才能をもつ指揮者として常に注目を集めているネゼ＝セガンは、2008年よりロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督ならびにロンドン・フィルハーモニックの首席客演指揮者、2000年よりモントリオール・メトロポリタン管弦楽団の芸術監督・兼・首席指揮者を任されている。これまで、ウィーン・フィルハーモニー、ベルリン・フィルハーモニー、ボストン交響楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、ドレスデン・シュターツカペレ、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管弦楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団など、世界的オーケストラに客演。フィラデルフィア管には2008年にデビュー。以来、楽団員や聴衆との関係を日々深めている。多様なレパートリーに支えられたコンサートは完売が続出し、定期公演後に開かれる「アフター・コン

サート・トーク」イベント等も好評を博している。フィラデルフィア管との共演においては、バッハのブランデンブルク協奏曲第5番(自らチェンバロを担当)のような小編成から、ブルックナーの交響曲第7番のような大編成の作品に至るまで、幅広いレパートリーを網羅。名レクイエムを紹介するプロジェクトも立ち上げ、2011年1月にはモーツァルトの《レクイエム》を、同年11月にはブラームスの《ドイツ・レクイエム》を取り上げた。2012・13年シーズンの開幕と自らの音楽監督就任を記念する公演では、ヴェルディの《レクイエム》を指揮。同シーズン中には、ルネ・フレミングを迎えたオープニング・ナイト・コンサート、ガブリエラ・レーナ・フランクの新作世界初演、舞踊、照明、ビデオ・プロジェクションを交えたストラヴィンスキーの《春の祭典》の上演などが華やかに行われた。その深い音楽性とカリスマをあわせ持つネゼ＝セガンの才能は、オーケストラ指揮のみならず、オペラや合唱の指揮でも発揮されており、ニューヨークのメトロポリタン・オペラ(MET)、ミラノ・スカラ座、ロンドン・ロイヤル・オペラ・ハウス、ザルツブルク音楽祭に登場するたびに、聴衆・批評家たちから熱狂的な支持を得ている。2012年にドイツ・グラモフォンとの契約を発表し、

DVD『グノー：ロメオとジュリエット(ザルツブルク音楽祭)』、同『ビゼー：カルメン(MET)』、マーラー・チェンバー・オーケストラとの共演による『ドン・ジョヴァンニ』をリリース。ロッテルダム・フィルハーモニーとは、『シュトラウス&ベルリオーズ』(BIS)、エジソン賞に輝いた『ラ・ヴァルス〜ラヴェル：管弦楽曲集』(EMI/Virgin)を発表している。2012・13年シーズンには、ロッテルダム・フィルハーモニーとのアジア・ツアーのほか、ロンドン・フィルハーモニックとのドイツ・ツアー、パリでのヨーロッパ室内管弦楽団との「シューマン：交響曲ツィクルス」などを行ったほか、バイエルン放送交響楽団への客演、METへの登場(ヴェルディ《椿姫》)でも話題をさらった。カナダのモントリオール出身。モントリオール音楽院にてピアノ、指揮、作曲、室内楽を学んだのち、巨匠カルロ・マリア・ジュリーニに師事。ウエストミンスター・クワイヤー・カレッジのジョゼフ・フランマーフェルトのもとで、合唱指揮も学んでいる。2012年、母国カナダより最高位勲章「コンパニオン」を受章。ロイヤル・フィルハーモニック・ソサイエティ・アワード、カナダ国立アーツ・センター・アワード等、受賞多数。モントリオールのケベック大学より名誉博士号を授与されている。

フィラデルフィア管弦楽団 The Philadelphia Orchestra

オフィシャル・ウェブサイト www.philorch.org



1900年創設。一世紀以上にわたり優れた演奏、歴史的な海外ツアー、ベストセラー録音、そして録音技術やアウトリーチ活動における前例のない革新的活躍で、世界有数のオーケストラの地位を確立している。これまでフリッツ・シール、カール・ボリーヒ、レオポルド・ストコフスキー、ユージン・オマンディ、リカルド・ムーティ、ヴォルフガング・サヴァリッ

シュ、クリストフ・エッシェンバッハが音楽監督を務め、世界に二つとない華麗な“フィラデルフィア・サウンド”を創りあげてきた。この豊かな伝統は、2008年に首席指揮者に就任したシャルル・デュトワに受け継がれている。デュトワの首席指揮者2年目のシーズンのハイライトには、デュトワが4年をかけて取り組んでいるベルリオーズの作品の中から「テ・デウ

ム」と「幻想交響曲」、バーバーの生誕100周年記念公演、さらに任期中に“パレエリウス”の音楽を紹介していく予定で、2009/10年シーズンにはストラヴィンスキー「ペトルーシュカ」と「春の祭典」を演奏する。フィラデルフィア管は多数の世界初演、アメリカ初演を手掛けている(バーバーのヴァイオリン協奏曲、マーラーの交響曲第8番「千人の交響曲」、ラフマニノフの交響的舞曲、シェーンベルク「グレの歌」、ストラヴィンスキー「春の祭典」など)。1936年にはアメリカのオーケストラとして初めてヨーロッパ大陸横断ツアーを、1949年にはイギリス・ツアーを行った。さらに1973年、アメリカのオーケストラとして初めて中華人民共和国で演奏し、1999年初めてベトナムを訪れた。このほか電氣的録音(1925年)、商業スポンサーをつけた専属ラジ

オ番組への出演(NBC放送、1929年)、映画サウンドトラックの演奏(パラマウント映画「The Big Broadcast of 1937」)、インターネットでコンサートのライブ・サイバー放送(1997年)など、フィラデルフィア管はこれらを世界で初めて行った。また同団はメジャー・オーケストラとして初めて、インターネットを通じて複数の会場へコンサートを同時中継したり、独自のオンライン・ミュージック・ストア www.thephiladelphiaorchestra.com から演奏を直接ダウンロードできるようにした。もうひとつ最近のハイライトとして挙げられるのが、1億2500万ドルの寄付キャンペーン「音、街、文明」である。アネンバーグ財団の5000万ドルをはじめとして、地域の人々から多額の寄付が寄せられ、オーケストラの基盤強化に貢献している。

五嶋 龍 [ヴァイオリン] Ryu Goto, violin

オフィシャル・ウェブサイト www.ryugoto.com



ニューヨーク生まれ。7歳でパシフィック・ミュージック・フェスティバルにおいて、パガニーニのヴァイオリン協奏曲第1番を演奏しデビューを飾った。その後、ソリストとして日本国内のオーケストラはもとより、ワシントン・ナショナル交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、モントリオール交響楽団、フランクフルト放送交響楽団、ウィーン交響楽団、サンフランシスコ交響楽団、フランス国立リヨン管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団、シドニー交響楽団、ハンブルク交響楽団、上海交響楽団など世界各地の

オーケストラと共演。指揮者では、ロリン・マゼール、ウラディーミル・アシュケナージ、ジョン・ミュンフン、レナード・スラットキン、ケント・ナガノ、ファビオ・ルイジ、タン・ドゥンラと、また器楽奏者では、ミッシェル・マイスキー、ジョン・ミュンフン等と共演する。演奏活動のみならず、ニューヨークでは同市教育委員会の協力のもと「五嶋龍 “Excellence In Music” (音楽優秀賞)」を通じて公立高校生に奨学金を授与する活動に加え、中南米・アフリカ・アジアでの教育活動・国際文化交流・社会貢献にも積極的に取り組む。10年間にわたりフジテレビのドキュメント番組

「五嶋龍オデッセイ」で成長過程が紹介された他、数々のメディアで特集が組まれるなど注目を集める。録音はドイツ・グラモフォンと専属契約を結び、ユニバーサルクラシックスよりリリース。使用楽器は、日本音楽財団より貸与された1722年製のストラディヴァリウス「ジュピター」。現在、JR東日本およびエアウィーヴのCMに出演。2015年10月より「題名のない音楽会」(テレビ朝日系列)の司会を務める。ハーバード大学(物理学専攻)卒業。(公社)日本空手協会参段。ニューヨーク在住。